

令和元年度 事務事業評価シート

事務事業名		自転車走行空間整備					所管	都市づくり部 交通対策課	
事務事業の概要	行政計画	事業NO.	206	計画事業名	自転車のセーフティ利用促進			事業の開始・終了年度	
	長期総合計画体系	[基本目標] 誰もが誇りや憧れを抱く安全安心で快適なまちの実現 [施策] 45 利用しやすい交通ネットワークの整備・充実					[事業開始] 平成 27 年度 [終了予定] - 年度		
	根拠法令等	条例・規則	〔法令等名〕			東京都台東区自転車安全利用促進条例			
	事業対象	直接の対象 : 一般区民 最終的な対象 : 同上							
	事業目的	自転車が安全で快適に通行できるよう、区道に自転車の走行空間を整備し、歩行者と自転車双方にとっての安全性の向上を図る。							
	事業内容 [H30年度]	自転車走行空間(自転車ナビマーク・ナビライン)の整備							
	委託の有無	なし	委託内容		なし				
補助金の有無	なし								
事務事業の実績	種別	指標の名称	単位	R2年度	H28年度	H29年度	H30年度		
				目標値	実績	実績	実績	目標値	達成率
	活動指標	区道の整備路線数	路線	1	2	3	4	4	100.0%
	成果指標	整備路線延長	m	200	6,440	3,606	5,170	5,480	94.3%
	決算額 (単位:千円)				H28年度		H29年度		H30年度
					17,787		7,826		11,502
	事務事業コスト (単位:千円)	人にかかるコスト(人件費など)			892		3,352		3,527
		物にかかるコスト(物件費・維持補修費)			0		0		0
		その他のコスト(扶助費・補助費など)			17,788		7,827		11,502
	財源項目 (単位:千円)	総経費			18,680		11,179		15,029
受益者負担額(使用料・手数料・負担金など)			18,680		9,445		11,502		
その他特定財源(国や都の支出金・財産収入など)			0		0		0		
	一般財源(区負担額)			0		1,734		3,527	
課題及び今後の進め方	平成27年度に実施した調査に基づき決定した優先整備8路線の自転車走行空間整備について、令和2年度に完了予定であったが、元年度をもって整備が完了することとなった。2年度は、入谷口通りの道路改良工事に合わせて整備を行うとともに、その他の路線について整備の必要性を調査・検討し、3年度以降の整備の方向性を定めていく。								
評価の視点	評価	評価の理由							
	必要性	4	台東区自転車安全利用促進条例の中に、安全利用のための環境整備に資する事業の実施が区の責務として定められている。29年に施行された自転車活用法を踏まえ、東京都では自転車活用推進計画が策定されるなど、自転車走行空間整備の必要性が高まっている。						
	効率性	3	整備手法として自転車ナビマーク・ナビラインを取り入れることにより、幅員の狭い区道においても大規模な道路改良を行わず、短期間で整備を行うことができた。						
	手段の適切性	4	27年度に実施した調査に基づき定めた優先整備路線の自転車走行空間整備を進めている。自転車の車道左側通行を視認する上でも重要である。						
目的達成度	3	30年度に、千束通り・地方橋通り・奥浅草寺町通り・金杉通りの自転車走行空間を整備したが、金杉通りの一部は道路改良工事のため、令和元年度に整備となった。							
〔総合評価〕 ※上記4つの視点を踏まえ、事業全体を評価。区民生活への影響を十分考慮すること。						今後の方向性			
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、より一層安全・安心な道路空間の確保が求められている。区では27年度に実施した調査に基づき定めた優先整備路線の自転車走行空間整備を進めてきたが、令和元年度をもって全路線の整備が完了するため、今後は優先整備路線以外の区道について、事業目的を踏まえた整備の方向性を検討していく必要がある。						維持		拡大改善 維持 縮小 廃止・終了	